

お釈迦さまの足あと  
 仏典は、お釈迦さまが自らの若き日を回想して言われたことば (ブッダの生涯カピラヴァストウカピラ城  
 若き日の悩み  
 お釈迦さまは釈迦族の王子として、カピラヴァストウ(パーリ：カピラヴァストウ、カピラ城)で何不自由のない生活を送られたとされます。



16才にしてヤシヨードラー(パーリ：ヤソードラー)という名の娘と結婚し、一子ラーフラをもうけたと伝えられています。しかし幼くして実母を亡くしたせいかわ物思いに耽ることが多かったようです。老・病・死という、いのちあるものであるならば誰もが避けられない問題について、若きお釈迦さまは苦悩されていたのでした。また同様のことが、別の仏典では



「四門出遊しもんしゅつゆう」という有名なおはなしとして描かれています。すなわち、あるときシッダールタ王子は城の東門から外へ出たとき老人を見て衝撃を受けられた。次に南門から外へ出て病人を見て衝撃を受け、さらに西門から外へ出て死人を見て衝撃を受けられた。そして最後に北門から外へ出て出家者に



シッダールタ太子の両親であるシンドーダナ王とマヤー夫人を火葬にした跡と伝えられている



また、お釈迦さまは一人の人間として苦悩され、人間として道を求められ、そしてさとりを開かれました。これが、たとえば神とか霊のようなもののお告げのようなものを契機としてお釈迦さまが仏教を興されたことすれば、仏教はいまあるものとは全然ちがったものになっっていたに違いありません

お釈迦さまは臨終の際に、弟子スバドラ(パーリ：スバツダ)に対して、このように言われたといわれています。お釈迦さまも、老・病・死を背負った一人の人間として生まれ、苦悩されました。しかしそれに屈するのではなく、その苦悩の中から、生きてゆく上で本当に「善きもの」を探し求めて出家をされたのでした。29才の時のことです。

私もさんわで  
 建てました

日出店

大分市畑中  
 高橋 泰則 様



河川の拡幅に伴い、お墓の移転をすることになりました。以前のお墓は、かなり大きく壊すのは惜しい気がしましたが仏様にとって、新築の家に入るのだから

ら気持ちよいことかもしれません。要望を聞いていただき、さんわさんに御縁ができて大変良かったとお思っています。私も最近病気がちで、不安もありますので御先祖供養に努めて参いろうと思います

森町店

大分市大字賀来  
 築城 徹江 様

前の墓地と先祖の墓



自家の墓は、写真を見ていただくと分かる通り、随分と古く、又、階段の登り降りには怖い思いをしながらお参りしてました。主人が亡くなって数年経ちますが、古いけどお墓があるので、そうまで考えていませんでした。が、最近この墓も建替えて、綺麗にはなるし、古い墓は当家と2、3軒になつてしましました。寄る年波でしょうか？階段は危なくなるし、古さは目立つし、で気になっていたと



ころ、同じ墓地に墓をもっている親戚が「さんわ」さんで建てて、「とてもいい会社よ」と紹介してくれました。それで、何もかもすべてお願いしました。古い墓が3ヶ所にあったのも、1ヶ所にしてもらい、階段はなくなり、低くなり、広々となりお参りしやすくなりました。本当に良くして頂いてありがとうございます。

もう今年もあと何日かです暮れますね・・・今年もまた あれもこれも先延ばし・・・一番大事な、私がわたしをわからず今年も暮れます。日が暮れます。

そのうち 相田みつを  
 そのうち お金が集まったら家でも建てたら

そのうち 子供が手を放れたら  
 そのうち 仕事が落ちついたら  
 そのうち 時間のゆとりができたなら  
 そのうち・・・  
 そのうち・・・と、できない理由をくりかしてはいるうちに結局は何もやらなかった空しい人生の幕がおりて頭の上に  
 淋しい墓標が立つ  
 そのうち そのうち  
 そのうち 日が暮れる  
 いまきたこの道 かえれない

仏法はわかいうちに  
 心がけて聴きなさい  
 御文63蓮如上人

